大人は、三つの顔をもて

教師生活３０年。教育現場の体験で私がたどり着いた結論は、生徒達は「母性」「父性」「子供の性」の三つの性を、私達大人がバランス良く使い分けて、育てることが大切だということです。
引いては、それが成果につながります。

「母性」とは・・・・・・

生徒の話にしっかり耳を傾け聞いてやり、受容するやさしさ。

「父性」とは・・・・・・

態度教育や生活規範を守らせるなど、絶対に許してはいけない場面で毅然と接する厳しさ。

「子供の性」とは・・・・

生徒と一緒になって遊び、楽しさを心から共有する朗らかさ。

生徒の側にいる大人が、三つの性を使い分ければいいのです。そうすれば、問題行動に走らず、立派に育ちます。

今、教育現場では、生徒達に厳しく接する事のできない先生が増えています。「父性」を欠いているのです。父性を欠く一因はどこにあるのでしょうか？その多くは躊躇や遠慮からきています。怒ること、厳しく指導することが、悪だと見なされる風潮があるからです。父性の発揮は、きわめて重要なコミュニケーションです。厳しく接することは、相手に強いかかわりを示すことなのです。

生徒が同じ過ちを犯さないように、本質をついて強く指摘することです。檄を飛ばして、燃え上がらせることです。そうすれば、父性は、やる気や元気を強く注入するかかわりとなります。

今の日本の教育は、ほめる文化が幅を利かせています。個を重視する傾向が強まり、個性を尊重してほめて育てましょうという教育が主流になりました。

優しさと甘やかし、遊びだけを与えても、厳しさがなければ決して人は育ちません。

教育は、人が人にどれだけ関われるかが勝負です。人との関わりという「心の栄養」がなければ、人は孤独になり駄目になってしまいます。

我々大人も、生徒の**「生き方モデル」**となることを目指していかなければなりません。